

東北地方太平洋沖地震の大滑り

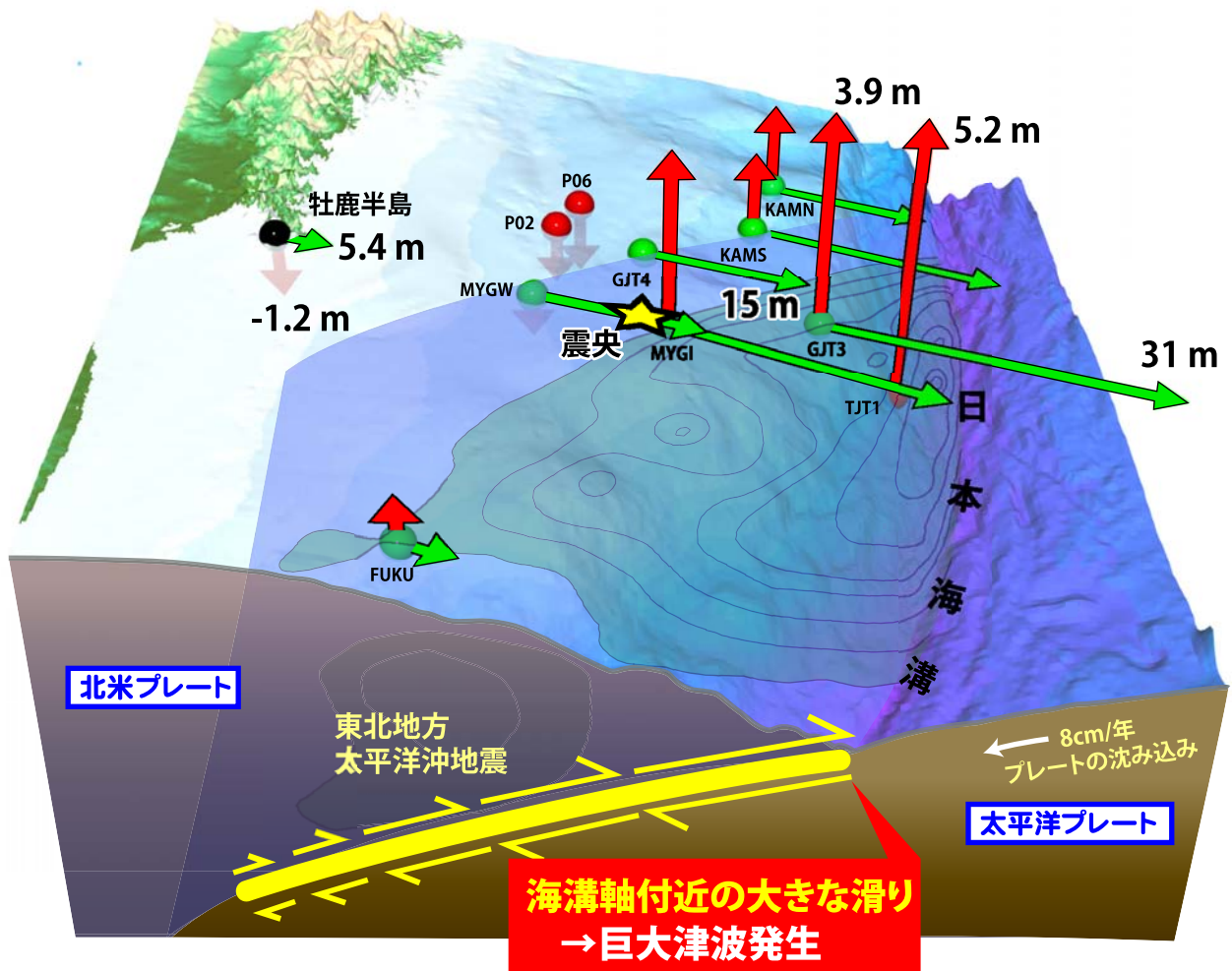


図4 地殻変動観測により、東北地方太平洋沖地震発生時のプレート境界の最大滑り量は50mを越える非常に大きな滑りであったことが明らかになった。この推定には宮城県沖に設置されていたGPS-音響測距結合方式による海底地殻変動観測が大きな役割を果たした。また、巨大津波の発生から、海溝付近のプレート境界浅部での滑り量が50m程度以上の非常に大きいものであったと推定された。